

## 事例番号 107 地域の人々がつくる町の物語(奈良県奈良市・奈良町地区)

### 1. 背景

奈良市は奈良県北部に位置し、北を京都府に、東を山添村、宇陀市、三重県伊賀市に、南を桜井市、天理市、大和郡山市に、西を生駒市に接するまちである。平城京に起源を持ち、寺社、史跡、名勝など数多くの歴史資産を持つ。旧市街である奈良町を中心に広がる条坊制の名残を残す格子状の道路は、古都の風情を現在に色濃く伝えている。奈良市は大阪市近郊の住宅地として人口が長期的に増加基調にあり、1981年に30万人を超え、1991年に35万人となったが、2005(平成17)年4月には月ヶ瀬村、都祁村と合併して37万3,574人となった。しかし人口増加率は1990年代以降大きく鈍化してきており、2008年の約37万5千人をピークに以後減少に転じるものと見込まれている。

奈良市の中心に位置し、JR、近畿日本鉄道の奈良駅に近い奈良町は、平城京遷都後衰退していたこの地に中世になって元興寺の門前町を中心につくられた町である。鎌倉時代後半には市が開かれ、その後境内地が住宅や商店に転用され、奈良南部の中心地として栄えた。門前町として発展した歴史を背景として、現在でも多くの社寺、伝統的建造物、商店、住宅などが混在する独特の風情ある町並みを形成している。

この奈良町地区を東西に分断する都市計画道路事業が1970年代に提示された。それが契機となり、住民の間に奈良町の歴史的町並みが崩壊するという危機意識が芽生え、町並みの保存や道路整備の対案の議論が巻き起こった。それが、それ以降の市民による持続的な町並み保存、継続的なまちづくりの活動の起点となった。その後、市民や市をはじめとする関係者の様々な取り組みが展開される中から「NPO 奈良まちづくりセンター」が生まれ、同センターは現在は「奈良町物語館」を拠点にまちづくりの中心的な組織として活動している。



奈良市の位置

# 奈良町物語館案内図



## 交通アクセス

近鉄奈良駅・JR奈良駅から  
 ならまち100円バス「元興寺前」下車徒歩3分  
 もしくは、近鉄奈良駅から徒歩13分

奈良の市街地と奈良物語館 (資料:「奈良まちづくりセンター」ホームページ)

## 2. 目標

中世から近世にかけて門前町として栄え、現在も伝統的町並みの残る奈良町地区(元興寺界限)を中心に、町並み保全・再生を図るとともに、住民による主体的・継続的なまちづくり活動により、住民同士の交流を促し、安心して暮らせる持続可能なコミュニティを実現することがまちづくりの目標となっている。

このような目標に至る経緯を奈良市の「総合計画」における都市の将来像の変遷で概観すると、1982年に策定された最初の総合計画では「未来にのびゆく国際文化観光都市 — 伝統と調和

のとれた新しい住み良いまちづくり」と先を見る姿勢が強く感じられるのに対し、1991年に策定された新総合計画では「歴史と自然と生活文化が織りなす、創造と交流の世界都市－奈良」と現在の生活を大切に作る姿勢がより強く感じられる。さらに2001年に策定された第3次総合計画では「世界遺産に学び、ともに歩むまち－なら」となり、過去に学ぶ姿勢が強くなっている。これに関して同計画の基本構想は次のように説明している。

歴史や自然環境を守り育てるとともに、新しい時代に対応した文化を創造し、人を中心としたまちづくりを進めることの重要性は、今日ますます高まっている。こうしたなかで、世界遺産をはじめとする歴史的文化遺産をまちづくりの核とし、人と自然と文化を大切に作るまちづくりをさらに発展させるため、世界遺産がもつ学術、芸術、技術の粋に学び、加えて人の心を大切にし、次の100年に向けた基盤づくりをめざす。

また、同基本構想は、まちづくりの基本方向、施策の大綱、基本構想の推進をそれぞれ以下のように掲げている。

〔基本方向〕

- ① 世界遺産を核に交流するまち / ② 歴史、文化、自然を未来につなぐ心豊かなまち
- ③ みんなが主役となるまち

〔施策の大綱〕

- ① 人権の尊重、文化の創造、教育の充実を進めるまちづくり
- ② 福祉のまちづくり / ③ 環境保全と安心・快適なまちづくり
- ④ 地域を支える産業を育成するまちづくり

〔基本構想の推進〕

- ① 市民参加の推進 / ② 効率的な行財政運営の推進
- ③ 関係機関との連携の推進

市がこのような方針を掲げるなかで、「奈良まちづくりセンター」は以下の目的を掲げている(センターのホームページより)。

- ① 奈良の歴史的風土や歴史的町並み保存などの歴史的環境保全とそれらを生かした地域振興活動の展開を通して、真の「日本人のふるさと奈良」を創生する。
- ② 住民による自主、自立のまちづくりやむらづくりを通じて住民(民間)主導、行政支援型のまちづくりを推進する。
- ③ 住民による自主、自立のまちづくりやむらづくり運動を地域社会に根づかせるための支援を行う。
- ④ 奈良に根ざしたシンクタンクとしての提言や提案を行い、調査研究活動を推進する。
- ⑤ 全国のまちづくり運動やアジアを中心とする世界のまちづくり運動とのネットワークを形成する。

### 3. 取り組みの体制

住民主導のまちづくり活動が行政を巻き込み、町並み保存運動や博物館整備などに公共資金を引き出す形でまちづくりが進んできている。奈良町地区では活動の中核を担う「NPO 奈良まちづくりセンター」(NMC)を中心に9つのまちづくり関連のNPOや団体が活動している。また、14の自治連合会などの地縁組織が連携している。

「奈良まちづくりセンター」は1979年設立(1984年に社団法人化)の組織で、理事会と事務局とから成る。構成員は、正会員(現在165名)、NMC物語館メイト会員(学生、現在26名)、シルバー会員(70歳以上、現在1名)、賛助会員(企業・自治体等、現在14団体)から成る。

### 4. 具体策

#### (1) 「NPO 奈良まちづくりセンター」(NMC)の設立とその活動

奈良町を南北に分断する都市計画道路の事業に危惧を抱いた奈良町の有志中心に1979(昭和54)年、「奈良地域社会研究会」(奈地研)が発足した。奈地研は同年、トヨタ財団研究コンクールに応募し(「奈良町研究」)、同財団の助成を受けて1981年に「歴史的街区における都市計画道路のあり方と住民による町並協定推進に関する研究」を行い、調査結果を公表した。その調査は、後に奈良市の委託を受けた調査に基づく道路整備と町並み保存に対する提言書「奈良町博物館都市構想」(1989年)の取りまとめにつながった。この提案が以後のまちづくり活動の本格的な取り組みの基礎となり、「ならまち賑わい構想」として市の施策に正式に位置づけられ、「奈良市ならまち格子の家」(1992年開館)、「奈良市音声館」(1994年開館)、「奈良市写真美術館」(1992年開館)等の公共施設の整備や、公共の援助を受けた民間ベースでの「未来工房奈良オリент館」、「奈良町物語館」(1995年完成)、「奈良町あしびの郷」等の整備が行われた。

1984(昭和59)年、行政の協力のもとで同研究会が「社団法人奈良まちづくりセンター」(NMC)に改組され、県下の各地域のまちづくりや地域活性化事業に関与することとなった。地域に根ざしたさまざまな調査研究やまちづくりの活動支援を行うシンクタンクとして、シンポジウムの開催や大学・研究機関との連携によるまちづくり調査の実施などの活発な事業展開を行っている。特に奈良町においては、まちづくりを担う中核的な組織となっている。NMC設立以前からの住民主導による約20年間のまちづくり活動の流れを整理すると、以下ようになる。

#### ◆第1期(1979～1983) <啓発・学習期>

1979年に「奈良地域社会研究会」が発足し、地元住民に対する町並み保存の広報・啓発や街づくりに関する学習会、フェスティバル、シンポジウムなどを実施した。1981年、トヨタ財団の研究助成により「歴史的街区における都市計画道路のあり方と住民による町並協定推進に関する研究」を実施した。1982年に「まちづくり相談室」を、1983年に「奈良町サロン」を開設した。

#### ◆第2期(1984～1988) <行政巻き込み期>

まちづくり活動が行政からの理解と評価を得て、研究会が1984年に「社団法人奈良まちづくりセンター」(NMC)として改組された。同センターは、地域に根差したシンクタンクとして、また、まちづくり支援NPOとして、県内外においてまちづくりの調査、提言を開始した。

◆第3期(1989～1994) <行政投資による基盤確立期>

1989年に奈良市の委託により「奈良町博物館都市構想」の調査を行い、1992年に「ならまち賑わい構想」として市の施策に位置づけられた。それに基づき、行政による博物館やまちづくり活動拠点の整備とそのNMCへの運営委託が行われ、NMCのまちづくり事業と組織の基盤が確立された。

◆第4期(1995～) <多彩な活動主体による総合力強化期>

1995年に「奈良町物語館」が開館し、同館の中にNMCの活動拠点を移した。NMCはこれまでの活動実績とそれを通じて形成した人脈、研究機関や大学とのネットワーク等を基盤として、アジアの歴史的都市との連携を深め、まちづくりを広げる活動、次代を担う若い世代のまちづくりに寄与する活動を推進している。

NMCの2005年度の事業計画は概略以下のようになっている。

1. まちづくり推進事業

(1) 大和の風景・景観を守り育てる運動

- ① JR奈良駅舎など大和の風景・景観・歴史的資産の保全に関する運動
- ② 大和の風景・景観のデータベース作り
- ③ 桜井市「三輪地域」を対象とする、地域に根ざした景観計画の作成  
(市民座談会、景観資源調査、ワークショップ、シンポジウム等)
- ④ 「音によるまちづくり 奈良町の音風景プロジェクト」

(2) ラーニング・コミュニティ構想事業

- ① 「ならまち探検隊」の実施(飛鳥小学校の総合学習をサポート)
- ② 「遊」文庫活動
- ③ 楽生座(学生を中心としたグループ)
- ④ 「伝承文化講座」の活動推進

(3) その他(歴史的町並みからの文化の創造と協働活動)

- ① 物語館コンサート等
- ② 「中新屋灯りの小径」参加
- ③ 楽生座中心に「ならまちわらべうたフェスタ 2005」参加
- ④ 前年の「賑・ならまち 25」からの発展に向けたイベント協力

2. まちづくり交流事業

(1) 奈良町物語館を活用した交流の充実

- ① 「新物語館サロン」の開催
- ② 「奈良町わいわい花見会」開催

(2) まちづくり団体との交流促進

- ① ネットワーク交流(大和まちづくりネットワーク、アジア・西太平洋都市保全ネットワーク、奈良NPOセンター、奈良町等との連携・交流)
- ② タイ・チェンマイとの交流の継続とアジアネットワークの強化

- (3) 大学・学会等との連携
  - ① 各大学とのインターンシップ、体験学習の受入れ、合同研究会の開催等
  - ② 日本居住福祉学会
  - ③ 中国湖北省武漢市・華中科技大学 建築・都市計画科との交流促進
- 3. まちづくり支援事業
  - (1) 調査研究
    - ① 橿原市地域福祉推進事業
    - ② 「大和まちづくり技術者ネットワーク」の再編と新しい展開
    - ③ 「奈良きたまち」まちづくり活動との交流・支援
    - ④ 自主研究
  - (2) 伝統的町家の保全活用に関する委員会
  - (3) 研修、講演、フォーラム等の開催
- 4. 広報出版事業
  - (1) 町家くん通信の発行(毎月1回)
  - (2) ホームページの拡充
- 5. 奈良町物語館運営事業
  - (1) 自主事業の開催
    - ① 物語館週間の実施
    - ② 物語館コンサートの開催
    - ③ 奈良町手作りの辻子の開催
  - (2) 利用の促進、経営改善など
    - ① 物語館運営委員会による利用改善等の検討
    - ② ボランティアスタッフによる運営の推進
- 6. その他
  - (1) 会員拡大などのための活動実施
  - (2) 委託調査事業の積極的拡大・財団助成プロジェクトの発掘
  - (3) 事務局体制の検討

## (2) まちづくり拠点、博物館等の整備による奈良町の活性化

1994(平成6)年に「ならまち賑わい構想」を策定した奈良市は、1990(平成2)年に制定した奈良市都市景観条例に基づき1994年に奈良町地区(約48ha、45町、1,600戸)を「都市景観形成地区」に指定し、伝統的建築物等の修理・修景に対し補助金を交付するようになった。それにより公共と民間とが一体となって整備した文化観光施設が増え、観光客が増えるなど町に賑わいが戻った。また、NMCも博物館・工房・人の交流という3つの要素による地域づくりを提唱し、町並み整備と並行する形でまちづくり拠点、小規模な博物館、美術館などの施設整備(公共、民間)が進む契機をつくった。

1995(平成7)年には明治初年に建築された伝統的町家を修復して「奈良町物語館」を開設した。これは、NMCの前身である「奈良地域社会研究会」(奈地研)のメンバーが1993年から改修計画



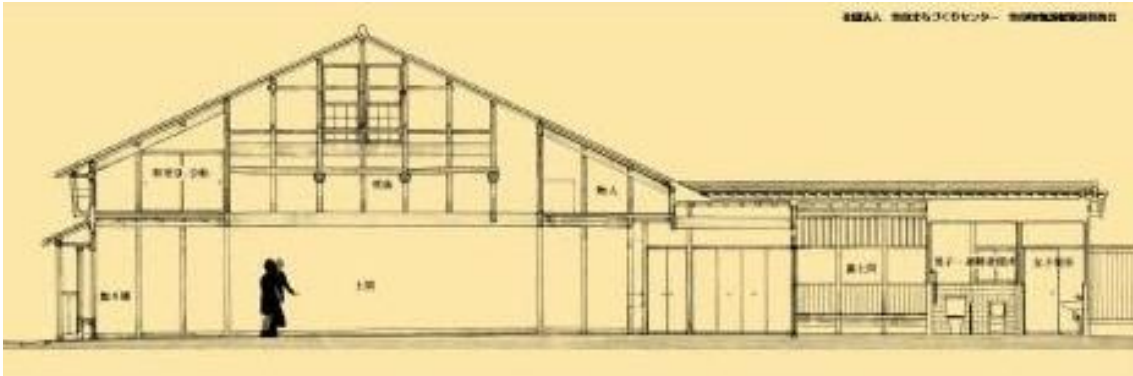
を進めていたものであるが、その計画が NMC の理事会で知られるようになって NMC の拠点にしたいという話になった。改修費用を NMC が持ち、NMC が 10 年以上は借りる等の条件で所有者との合意が実現し、1993 年 11 月頃から資金調達、運営方法、改修計画等について議論を重ね、1994 年に着工、1995 年に完成した。同館は、建設省地域木造住宅供給促進事業の中の伝統的住宅改修展示事業の一環として整備されたが、その役割とともに以下の機能を持っている。

- ① インフォメーション機能  
(町家の改修、まちづくり、奈良町や大和の観光・イベントに関する情報提供)
- ② 相談機能 (町家の改修等の技術的事項やまちづくりに関してアドバイス)
- ③ 研修交流機能 (講習会、研修会、交流サロン等)
- ④ 展示機能 (町家の改修等の展示その他、多目的な展示)
- ⑤ 管理機能 (NMC の事務局、施設管理)

同館は、光客のスポットとしても住民の生涯学習の場としても親しまれている。一方、行政側も「奈良市資料保存館」、「ならまち振興館」、「音声(おんじょう)館」など7館を整備し、町内で官民合計 14 の小規模な施設がオープンしている。



「奈良町物語館」の平面図 (資料:「奈良まちづくりセンター」ホームページ、次図も同じ)



「奈良町物語館」の断面図



奈良町物語館 (資料: 奈良市ホームページ、以下同じ)





奈良町資料館



奈良音声館

## 5. 特徴的手法

### (1) 民間、公共の役割分担による街づくりの相乗効果の発揮

奈良町のまちづくりでは、民間と公共の効果的な役割分担が大きな相乗効果をもたらしたと言える。町家・町並の保存やまちづくり拠点・博物館等の整備において住民の精力的な活動が公共投資を引き込み、その効果で交流人口がさらに増加して民間投資が一層誘引されるという相乗効果が働き、町並等が整備されるとともに14棟の施設が開業するに至っている。行政である奈良市、NMCをはじめとする9つのNPO、それらと連携する14の自治連合会などの地縁組織が互いに信頼関係を構築しながら役割を分担して街づくりを進めてきたことも事業成功の大きな要因であったと考えられる。

### (2) 高いレベルの政策提案力を持った地域密着型まちづくりNPOの存在

市の街づくり方針を決定していく上で、高いレベルの政策提案力を持ったNMCが存在した意義は大きかった。地域密着型のシンクタンク・街づくり支援型NPOが事業実施のエンジンとして極めて有効に機能しているモデル的な事例となっている。

## 6. 課題

これまでのまちづくりのプロセスで培われてきた良好な連携関係をさらに発展させながら、今後とも時代の変化に応じたまちづくり活動を継続していくことが引き続き求められている。



奈良町物語館の「カクテルバーイベント」

(参考・引用文献)

社団法人奈良まちづくりセンターホームページ

『実践！地域再生の経営戦略』日本政策投資銀行地域企画チーム

『CEL52号』大阪ガスエネルギー・文化研究所